富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山県のニホンミツバチ（Apis cerana japonica Radoszkowski）

著者	根来 尚
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	15
ページ	65-68
発行年	1992-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=604

富山市科学文化センター研究報告第15号，pp.65-68(1992)

富山県のニホンミツバチ（*Apis cerana japonica* Radoszkowski）*

根来　尚
富山市科学文化センター

Distribution of Japanese honeybee (*Apis cerana japonica* Radoszkowski) in Toyama Prefecture, Honshu, Japan

Hisashi Negoro
Toyama Science Museum

A servey was made of the distribution of Japanese honeybee at various localities in Toyama Prefecture, Japan. Individuals visiting flowers were found from the coastal zone up to the subalpine zone, but it was considered that the nesting zone of Japanese honeybee was from the coastal zone up to the upper mountainzone.

はじめに

日本在来のミツバチであるニホンミツバチ（*Apis cerana japonica* Radoszkowski）は，青森県から鹿児島県まで広く分布することが知られている。しかし，現在，平地から丘陵地にかけての花ばなを訪れるミツバチの多くは，養蜂に用いられるセイヨウミツバチ（*Apis mellifera* Linnaeus）であり，在来のニホンミツバチは見る機会が少なくなっている。

全国的にもニホンミツバチの減少が心配されている(岡田，1990)。森林の伐採や開発行為による営巣可能地の消失，セイヨウミツバチとの関係たとえば盗蜜による圧迫，また人家近くでは駆除されるなど，減少要因が多い。

全国的には，ニホンミツバチを用いた養蜂が岩手県から鹿児島県まで広く各地で見られるという(岡田，1990)。しかし，富山県内ではニホンミツバチを用いた養蜂は行われていないようである。

富山県内での，ニホンミツバチの分布についての記録はたいへん少なく，田中（1979），根来（1982），瀬川・根来（1991）に記録が見られるにすぎず，記録された産地も少ない。

筆者は，数年以前よりおりにふれてニホンミツバチの採集を行ってきた。その結果を報告し，富山県内のニホンミツバチの現状を知るための一助としたい。

なお，ニホンミツバチとセイヨウミツバチの両者は形態的によく似ており，見分けには，大きさ，体色の違いでほぼ見当がつくが，後翅翅脈を見るのが確実である。

玉川大学ミツバチ科学研究所，富山県養蜂協会，大場養蜂園の大場　勲氏には，県内の養蜂の状況についてお教えいただいた。また，佐伯定芳氏には，大辻山周辺のツキノワグマの生態についてお教えいただいた。厚く御礼申し上げます。

既知産地

黒部峡谷北又（700m），1974-X-26（田中，1979）

*富山市科学文化センター研究業績第119号

黒部峡谷鐘釣（450m），1974-XI-9（田中，1979）
富山市日方江（5m），1990-VII-10（瀬川・根来，1991）
富山市城山(140m)，1980-V-28(根来，1982)
福光町福光(100m)，1972-IX-3(田中，1979)

採集記録

採集は全て筆者による。

特記しないかぎり採集個体は全て働き蜂一個体である。採集日の後の（　）内に当センターの登録番号(但し，TOYA-JI-は除いた)を記した。

宇奈月町欅平上部（1000m），1990-IX-11（8221）
上市町眼目（160m），1984-IV-26（8222）
上市町釈泉寺（200m），1986-V-8（8223）
上市町大岩（200m），1988-X-7（8224）
立山弥陀ケ原（1900m），1987-VII-21（8225）
大山町大川寺(180m)，1990-V-11，1♂(8226)
大山町有峰（1100m），1982-VI-4（8227）
大沢野町猿倉山（340m），1982-IV-20，1982-VIII-31，1989-III-30（8228-8230）
大沢野町牛が増（180m），1988-V-25，1990-V-30（8231，8232）
大沢野町薄波（200m），1987-IV-30（8233）
富山市城南公園（10m），1991-IV-24（8234）
富山市城山（140m），1990-V-15，1990-VI-19（8235，8236）
婦中町吉谷（100m），1988-V-27（8237）
八尾町高瀬（300m），1980-IV-24，1989-IV-7（8238，8239）
砺波市頼成山(150m)，1986-IV-17，1990-IV-10，1991-IV-10（8240-8242）
利賀村山の神峠(850m)，1979-VIII-9(8243)
利賀村水無平（1400m），1988-VII-19（8244）
上平村池の平（800m），1989-VII-19（8245）
上平村ブナオ峠(1000m)，1991-IX-20(8246)
氷見市宮田（20m），1991-X-21（8247）
氷見市柿谷（20m），1987-VI-1（8248）
氷見市森寺（40m），1989-X-18（8249）

分布の概況など

図1に富山県内のニホンミツバチの採集地を示した。採集地の最高所は立山弥陀ケ原の約1900m，最低所は富山市日方江の海岸部である。富山市街地の城南公園を除いては，全て林地内もしくは林縁地である。城南公園とその近傍では営巣が認められなかったので飛来個体と考えられる。

また，積雪が11月から6月まで約半年間にもおよぶ標高1900mの弥陀ケ原では，おそらく営巣は無理と思われ，より低地からの飛来と思われる。

立山町芦峅寺在住の佐伯定芳氏によれば，立山町大辻山(1361m)周辺の自然林では，タテヤマスギの大木の樹洞にミツバチが営巣し，それをツキノワグマが食糧としているとのことである。

富山県内では営巣可能地の上限は，1500m程度（利賀村水無平で1400m）と思われる。

働き蜂の訪花活動が見られるのは3月下旬より11月上旬で，外気温が15℃を越えると活発な活動が観察される。

筆者が営巣場所を確認できたのは，上市町釈泉寺のサクラ古木の樹洞中，富山市日方江のマツ古木の樹洞中，富山市城山の墓石の隙間，大山町大川寺の石灯籠の隙間の四ヶ所のみである。この四ヶ所とも，平地もしくは平地にごく近い丘陵地であって，人家の近くである。こういった所では，ミツバチの営巣に適した場所がたいへん限られ，目立つ場所であっても営巣せざるをえないのではないかと思われる。また，墓地や人家近くでは駆除される危険が常にあり，安定した営巣場所とはなりえない。事実，富山市日方江の巣は，近くに墓地が有り薬剤の散布で消滅させられた。

現在，セイヨウミツバチによる養蜂は，山地では主にトチやシナノキの花蜜をねらい，標高800m程度まで行われているようである。 かつては2300m付近までも持って上がったそうだが，近年はクマによる被害等の採算性の問題で，山地深くは持っていかないとのことである。

セイヨウミツバチ群が置かれた周辺では，訪花植物をめぐる関係や盗蜜などニホンミツバチの生息に影響の出る可能性も有ると思われるが，それに関しての詳しい調査は無いようである。

まとめ

富山県内のニホンミツバチは，海岸部から山地上部約1500m付近まで広く分布している。

しかし，生息に圧迫を加える要因も多く，その生息状況の充分な把握には，まだ調査不十分である。確実な営巣場所の確認をより多く行うなど，より詳細な調査が必要と思われる。

文　献

根来　尚，1982．富山市産昆虫類の記録．富山市科学文化センター研究報告，4：31-67.

岡田一次，1990．「ニホンミツバチ誌」（自刊），81pp.

瀬川哲夫・根来　尚，1991．昆虫．「富山市浜黒崎海岸自然調査報告書」（富山市科学文化センター）:36-59.

田中忠次，1979．膜翅目．「富山県の昆虫」富山県昆虫研究会編（富山県）:459-489.

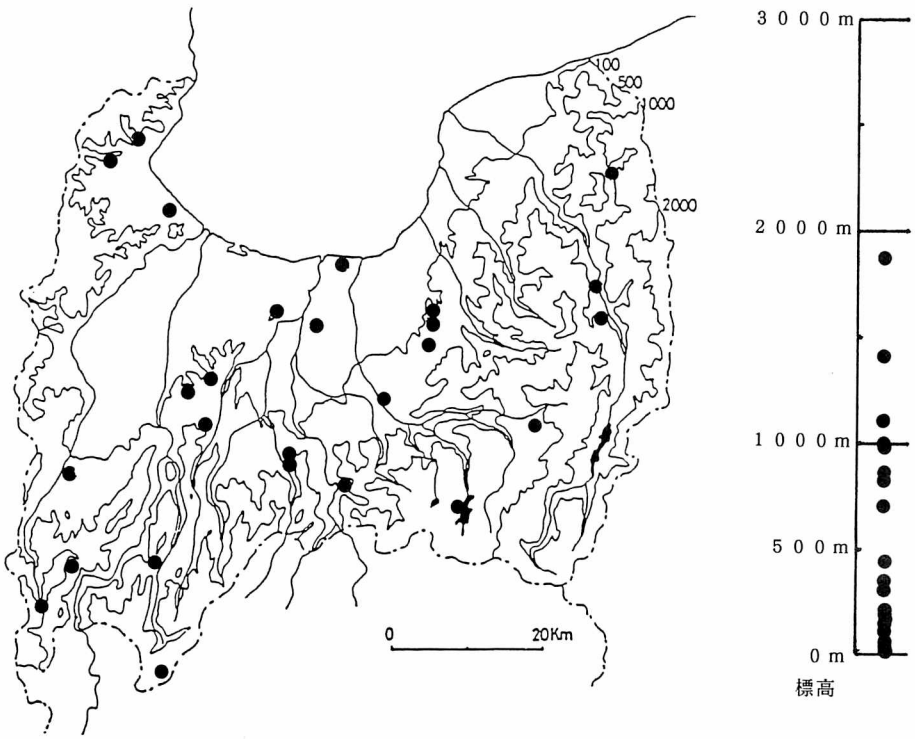


図1．ニホンミツバチの分布

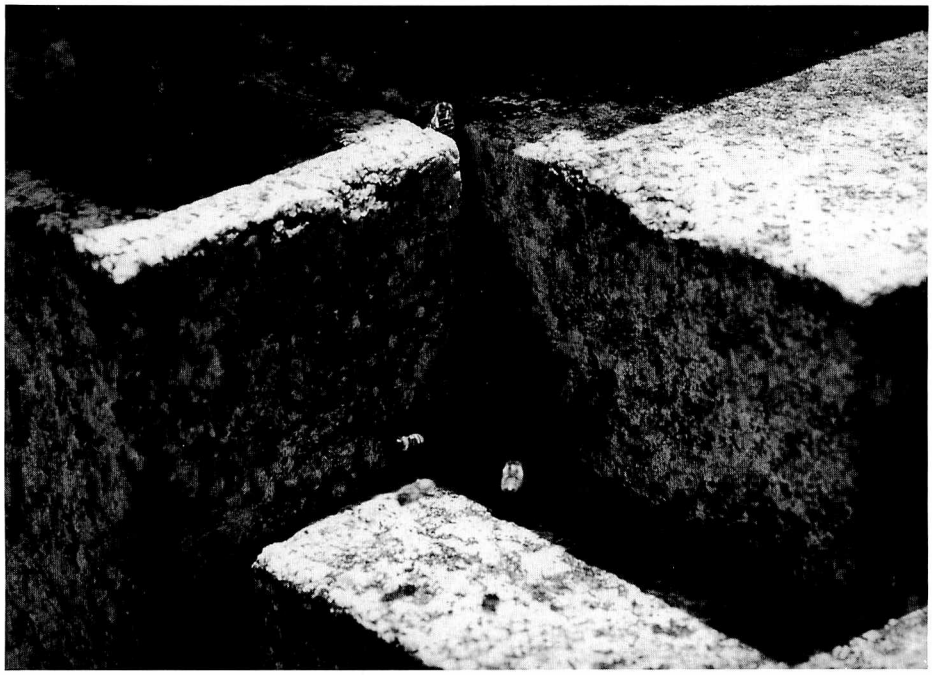


図２．墓石のすきまに営巣したニホンミツバチ